

令和2年産水稻の10a当たり平年収量 に係る生産事情（都道府県別）

大臣官房統計部

令和2年3月17日

農林水産省

令和2年産水稻の10a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
北海道	<p>○ 主要品種に大きな変動はないものの、直播栽培に適した新品種「えみまる」が増加すると見込まれる。</p>	<p>○ 収量・品質の安定に向け、健苗の育成や稲体の耐冷素質の向上を図るため、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育苗管理の徹底 ・ 深水管理とそれを可能とする畦畔整備 ・ 地力増進やほ場の透水性改善 ・ 防風対策等の栽培環境整備 ・ 適正施肥 <p>○ 成苗移植の普及など安定生産に向けた栽培技術が定着している。</p>
青森	<p>○ 「つがるロマン」及び「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年、収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり、令和2年産も同様の傾向になるものと考えられる。県内の「つがるロマン」の約3割を作付けしてあるJAでは、令和2年産から「つがるロマン」の割合を7割から3割に縮小するなど「まっしぐら」への切り替えの動きが見られる。</p>	<p>○ 高品質・良食味米の安定生産（気象に左右されない米づくり）に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な肥培管理（つがるロマンは多肥料栽培に弱いことから追肥は窒素成分で2kg以内にする等）、水管理、適期移植、土作りの推進等（安定栽培技術の普及・定着） ・ 育苗箱全量施肥では、施肥後30日程度の肥効抑制期間で分けつが抑制され、慣行栽培に比べ穂数の減少傾向が強いことから、穂数確保のため即効性肥料も併せて施用する方法が県内で一定の広がりを見せている。
岩手	<p>○ 「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。 県では「ひとめぼれ」、「あきたこまち」からオリジナル品種「銀河のしずく」に転換を図ることとしている。</p>	<p>○ 高品質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 品種特性を踏まえた品種の作付、低温障害回避のため適期移植の指導 ・ 有機物による土作り、追肥の適正実施の指導（土壌診断に基づく補給型施肥（収穫等によってほ場外に持ち出される分だけを補給）及び追肥時期・追肥量の適正な実施（ひとめぼれ、あきたこまち、いわてっこ、銀河のしずくは幼穂形成期に2kg/10aを上限、どんぴしゃりは幼穂形成期に2kg/10aを基本）等を推進）
宮城	<p>○ 「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっており、「つや姫」が増加傾向となっている。 なお、「萌えみのり」、「だて正夢」はやや増加傾向にある、</p>	<p>○ 高品質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高温登熟による品質低下への対策として晩期栽培（遅植え）の推進 ・ 適正な水管理、土づくりの励行、適正な栽植密度・肥培管理等 ・ 大規模化に対応した熟期の異なる品種構成の導入等の推進
秋田	<p>○ 「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はないものの、「めんこいな」、「ゆめおぼこ」等の多収性品種が増加傾向となり、一定のウエイトを占めてきた。</p>	<p>○ 高品質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土づくりの推進、適期移植と栽植密度の適正化 ・ 適正な水管理、雑草防除の徹底 ・ 適正な施肥管理と適期刈取り等

令和2年産水稻の10a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
山形	○ 「はえぬき」、「つや姫」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪若丸」は増加傾向にある。また、主力品種の「はえぬき」及び「つや姫」が安定した収量が見込まれる。	○ 良高品質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 土づくりの推進、健苗育成、適正な水管理・施肥の徹底 ・ 土壌診断に基づくリン酸、カリ等の適量施肥等
福島	○ 「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成で、近年「天のつぶ」が増加傾向となっている。	○ 高品質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 品種の市場性、冷害危険度等を総合的に考慮した適地適作の推進 ・ 土壌診断に基づくカリ施用、堆肥の施用による土づくり、緩効性肥料使用時の適切な追肥等の指導
茨城	○ 「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「ふくまる」がやや増加傾向にある。	○ 良質米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適期・適切な中干しによる茎数管理 ・ 適期収穫と適正乾燥・調製
栃木	○ 「コシヒカリ」及び「あさひの夢」を中心とする品種構成に大きな変化はない。なお、オリジナル品種「とちぎの星」がやや増加傾向にある。	○ 品質や食味の向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 移植時期の分散化 ・ 生育診断に基づく適正な肥培管理
群馬	○ 「あさひの夢」、「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」及び「ゆめまつり」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 夏場の高温対策として、高温登熟の回避や高温に強い稲体づくりの徹底等の指導が行われている。 ・ 適期移植と水管理 ・ 土づくりの推進と適期、適量施肥 ・ 早期落水の防止
埼玉	○ 「コシヒカリ」、「彩のかがやき」及び「彩のきずな」を中心とする品種構成であり、近年「彩のみのり」が減少傾向にある。	○ 品質・食味向上及び安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 栽培基準や栽培指針に準じた肥培管理を基本とし、栽培管理技術や土づくり等を徹底 ・ 夏場の高温対策として、水管理の徹底、栄養診断に基づいた施肥の実施及び適期収穫の指導
千葉	○ 「コシヒカリ」、「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成であり、近年「ふさこがね」が増加傾向にある。	○ 近年、異常気象が続いている中、気象条件に強い稲作りに向け、以下の指導が行われている。 ・ 植付早限の厳守、前半の生育確保、適正な追肥の施用等 ・ 適正な水管理、適正な防除 ・ 耐病性、耐倒伏性、品質向上のためのケイ酸の補給
東京	○ 「キヌヒカリ」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	

令和2年産水稻の10a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
神奈川県	○ 「はるみ」、「キヌヒカリ」及び「さとじまん」を中心とする品種構成であるが、近年、「キヌヒカリ」及び「さとじまん」が減少傾向にある。	○ 良質・良食味米の生産に向け、登熟歩合の向上や登熟期間の障害低減のための穂肥適期施用等の指導が行われている。
新潟県	○ 「コシヒカリ」及び「こしいぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少傾向にある。 また、県では新品種「新之助」（晩生種）の作付拡大を推奨している。	○ 高品質・良食味米生産推進のため、以下の指導が行われている。 ・ 作業時期の分散のための適期移植 ・ 栽植密度の適正化 ・ 適期・適切な中干しの徹底 ・ 適正な穂肥、水管理
富山県	○ 「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温登熟でも品質が安定している「てんこもり」及び「富富富」が増加傾向にある。	○ 高温に打ち勝つ米づくりに向け、以下の指導が行われている。 ・ 高温登熟の回避として適期移植の実施 ・ 高温に打ち勝つ稲体づくりとして、適正穂数に向けた栽培密度（70株/3.3㎡）の確保、適期・適切な中干しの徹底 ・ 土壌診断に基づく土づくりの実施・基肥の適正な施用
石川県	○ 「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成であるが、近年、県オリジナル新品種の「ひやくまん穀」が増加傾向にある。	○ 高品質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正穂数（栽培密度）の確保 ・ 肥料の適期・適量施肥 ・ 適期収穫 ・ 土づくり等の推進
福井県	○ 「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成であるが、近年「コシヒカリ」が減少傾向、「あきさかり」が増加傾向にある。 なお、新品種である「いちほまれ」も増加傾向にある。	○ 土づくりと適切な水管理の徹底 ○ 高温登熟回避による品質向上を図るため、適期移植等の指導が行われている。
山梨県	○ 「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。近年「ヒノヒカリ」が増加傾向にある。	○ 高温による品質低下防止のため、以下の指導が行われている。 ・ 適期は種、適期移植 ・ 適正な水管理 ・ 適期収穫
長野県	○ 「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。 県のオリジナル品種として、「風さやか」の導入を推進している。	○ 食味向上に向けた適量施肥 ○ 高温登熟障害（胴割米、白未熟粒）防止のための適切な水管理、適期収穫等 ○ 低コスト稲作推進のため、疎植栽培等の指導
岐阜県	○ 売れる米づくりと高品質安定生産の面から、「ハツシモ」、「コシヒカリ」は一定の作付が維持される一方、収量水準の高い「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」が減少傾向にある。	○ 温暖化傾向に対応するため、以下の指導が行われている。 ・ 疎植栽培の普及 ・ 緩効性肥料の導入 ・ 適正な肥培管理 ・ 適期収穫

令和2年産水稻の10a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
静岡	○ 「コシヒカリ」、「あいちのかおり」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成であるが、近年、「きぬむすめ」が増加傾向にあり、「あいちのかおり」が減少傾向にある。	○ 売れる米づくり及び省力・低コストのため、以下の指導が行われている。 ・ 健苗育成、追肥（穂肥）の適量・適期の徹底 ・ 適期防除・適期刈取り ・ 基肥一発肥料（側条施肥）導入や疎植栽培の拡大による育苗箱数削減
愛知	○ 「あいちのかおり」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米生産に向けて、施肥改善と基本技術の励行 ○ 過剰な生育を抑制するため、適正な栽植密度の確保等
三重	○ 「コシヒカリ」及び「キヌヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 白未熟粒対策のため、品種に応じた適期・適量施肥等の指導が行われている。
滋賀	○ 「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「日本晴」を中心とする品種構成であるが、近年、「コシヒカリ」及び「キヌヒカリ」が減少傾向となっている。 高温登熟性に優れた「みずかがみ」を増加する計画である。	○ 良質米生産に向け、土づくりを基本にして、 ・ 初期の過繁茂抑制、もみ数過多の抑制 ・ 登熟期の高温回避 ・ 登熟期の栄養確保を重点 生育の各段階における栽培技術の見直し、品質の高位安定化を図っている。
京都	○ 「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 緩効性肥料の施用 ・ 適期移植、疎植
大阪	○ 「ヒノヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品種別、地域別に適期移植、水管理の適正化、合理的施肥、適期収穫等の指導が行われている。
兵庫	○ 「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。「きぬむすめ」の作付推進を図っている。	○ 良質米生産に向け、品種別に以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適期・適量施肥
奈良	○ 「ヒノヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上といもち病回避のため、減肥栽培の指導が行われている。
和歌山	○ 「キヌヒカリ」、「コシヒカリ」、及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。なお、近年「きぬむすめ」が増加傾向にある。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適量施肥
鳥取	○ 「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 土づくりの徹底 ・ 適期移植 ・ 施肥の改善 ・ 適正な水管理 ・ 適期の病害虫防除等
島根	○ 「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成であるが、近年、「コシヒカリ」が減少傾向、「つや姫」が増加傾向にある。	○ 良質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 健苗の育成 ・ 地域別・品種別適期移植 ・ 適正な肥培管理

令和2年産水稻の10a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
岡山	○ 「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「あきたこまち」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。	○ 育苗作業の省力化のため疎植栽培や直播栽培の普及 ○ 生育状況に応じた施肥管理 ○ 高温下での登熟回避のための適期移植
広島	○ 「あきさかり」が増加傾向にある。	○ 需要に応じた生産に向け、以下の指導を行っている。 ・ 良好な管理が行われているほ場の作付の維持・拡大 ・ 低コスト化技術（密播疎植栽培、直播栽培等省力栽培）の導入 ・ コシヒカリと比較して収量性の高い（多収で品質の良い）品種を導入して経営改善
山口	○ 「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年「きぬむすめ」が増加傾向にある。	○ 品種特性に応じた栽植密度の確保 ○ 中干し等水管理の徹底 ○ 気象条件にあった施肥管理等の指導が行われている。
徳島	○ 「コシヒカリ」、「あきさかり」及び「キヌヒカリ」を中心とする品種構成であり、「キヌヒカリ」から耐暑性に優れた「あきさかり」への作付転換を図る予定である。	○ 早期・普通期とも疎植栽培の推進 ○ 食味の向上や倒伏による品質低下防止のため、適期・適量施肥等の指導が行われている。
香川	○ 「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」及び「おいでまい」を中心とする品種構成となっている。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正な水管理 ・ 適正な株間での適期移植 ・ 適量施肥 ・ 適期の病害虫防除等
愛媛	○ 「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」、「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適正な水管理 ・ 生育後半まで肥効を維持させる
高知	○ 早期栽培では「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年高温登熟性に優れた「よさ恋美人」が増加傾向にあるが、「南国そだち」は減少傾向。 また、普通栽培では「にこまる」が増加傾向にある。 ○ 特に県西部において高齢化等により生産組織へ委託する農家が増加傾向にあり、受託面積割合が高くなっている。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正な肥培管理、水管理、適期防除、適期刈取。 ・ 高温障害対策として、早期栽培では収穫前の水管理の徹底、普通期栽培では適期移植（移植時期を遅らせる）。

令和2年産水稻の10a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
福岡	○ 「ヒノヒカリ」、「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向、「夢つくし」、「元気つくし」が増加傾向となっている。 なお、県では今後、新品種「実りつくし」の拡大を推奨している。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 中干し・間断灌水・落水時期の適正化 ・ 土壌診断・施肥基準に基づく適正な施肥
佐賀	○ 「夢しずく」、「さがびより」、「ヒノヒカリ」及び「ヒヨクモチ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 品種特性に応じた移植時期の徹底 ・ 生育ステージに応じた施肥管理、水管理
長崎	○ 「ヒノヒカリ」、「にこまる」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。 なお、県は「なつほのか」を奨励品種としており、増加傾向にある。	○ 品質に加え、食味に重点をおいた栽培指導（適正な肥培管理等）
熊本	○ 「ヒノヒカリ」、「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 高温時期の登熟障害回避のための適期移植（遅植栽培）の推進 ・ 水管理・追肥等の改善 ・ 土壌改良資材の投入
大分	○ 「ヒノヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。 なお、ヒノヒカリは、登熟中の高温による品質低下が他の品種に比べ著しいが、消費者の人気の高いこと等から、大きく変動する状況ではないとの情報がある。	○ 高品質、良食味米生産を基本とし、効率的な生産体制の整備による低コスト生産を推進するため、以下の指導が行われている。 ・ 担い手への農地集積。 ・ 乾田直播等の新技術や多収品種の導入による生産コスト削減。 ・ 夏期高温によりヒノヒカリの品質低下が問題となっている地域における移植時期の適正化等。
宮崎	○ 「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。 「み系358」への作付誘導が進められている。	○ 移植時期の後進化 ○ 土壌診断に基づく適正施肥等の指導が行われている。
鹿児島	○ 「なつほのか」及び「あきほなみ」が増加傾向である。	○ 良品質米の生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 健全な土づくり ・ 適期植付・防除・収穫 ・ 適正な栽植密度・施肥・水管理
沖縄	○ 「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 肥培管理・防除等の指導